

## 自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.36

「冬来りなば春遠からじ If Winter comes, can Spring be far behind? 」

2021年1月31日

今日は1月最後の日。月末に積雪があり、翌朝は厳寒の空に満月が煌々と輝き、地面には霜柱が立っていた。冬の真っ直中だが、暦の上では節分が近い。そこで、早咲きのセツブン草が見れるか近隣の本橋野草苑を訪ねた。咲いていた。但し、開花していたのはまだ1/10以下。震える手だカメラに収める。

庭に目を移すと、雪を押し分けて咲く早春の花・スノードロップ（松雪草）と雪割草が蕾を開こうとしていた。節分＝立春(今年は2/2)の入口前に立った気分であった。

庭には、真冬に実を結ぶ木・万両、千両、百両が揃って鮮やかな実を付けていた。また、冬を彩る花・椿が何種類も咲いていた。後に、山茶花と椿の花を特集する予定なので、ここでは、本橋さんが大事に育てている3種の椿（侘助椿と笑顔椿）と芦花公園内の藪椿の花を紹介する。